

特別
V5
8329
4



特

門 5
號 8329
卷 4



此部書在石印書友之區
惟如原別冊之圖之五之五區
所印之五

五月廿

田中一人
石印部之書
為湖國之書
并印部之書
一印部之書
內有及之書

蓋理控筆情
市任内御物

田中一云佐
藤中平兵衛
工田中平兵衛
藤中平兵衛
一濃傳之書

四條中平兵衛
御座中平兵衛
倉屋中平兵衛

御座中平兵衛

工田中平兵衛

御座中平兵衛

御座中平兵衛

工田中平兵衛

元 汝等正行所公親等以忠告後 深希汝等而志云現
諸王所公親等以忠告後 深希汝等而志云現

也云

右 西宮中御所

以 汝等正行所公親等以忠告後 深希汝等而志云現
諸王所公親等以忠告後 深希汝等而志云現
也云
右 西宮中御所

八月十五日

西宮中御所

皇朝八十年之始
三年

牛馬通書乃
一德之由也
非任也
甲午古依

苦寒中格在也
花自早平也
之白也
甲午古依
非任也

一德之由也

皇朝

花人如春之山外也
今望依和科類入
皇朝八十年之始
三年

江戸見立八ノ月二日
三年

菅野権三郎
権三郎
三田
伊豆
一

早七作

上村村長
菅野権三郎
三田
伊豆
一

百首
田中七世
邪淫田中
山崎少卿
一瀬要人
小宮少卿
芝野特任
一瀬和善
新田武家

田中一人

西郷南光
二田正三
藤原清

櫻井地佐
師方知
此計

柳能の事

二月九日

以之賦の意を以て之を擬し及たの語に師も海に師也
舟のこまの支死難所と海平飛急の舟の所也
而して之の中にも海に師也と云ふ事あり及たの語に師也
の五孔中流ありと南に判りて海平飛急の舟の所也
而して之の中にも海に師也と云ふ事あり及たの語に師也
舟のこまの支死難所と海平飛急の舟の所也
而して之の中にも海に師也と云ふ事あり及たの語に師也
舟のこまの支死難所と海平飛急の舟の所也
而して之の中にも海に師也と云ふ事あり及たの語に師也

二月九日

井澤為全門

三ノ巻

石山寺の言ふに云々七日五日の夜に城戸村に遊ぶに程
其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて
其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて
其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて
其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて

但日有午也

一 石山寺の言ふに云々七日五日の夜に城戸村に遊ぶに程
其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて
其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて
其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて其の言に據りて

但日及之午

一 此漢書後漢書帝紀卷之九百九十四曰以五刑者
右神女之精字精字精字精字精字精字精字精字精字
志誠勿使有女子也

一 於此又西合之其意也此刑也乃後漢書
免其死也其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也
の起るなり其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也
事其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也
而此刑也其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也
之其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也
後漢書其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也

一 此刑也其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也
他刑也其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也其意也

馬下をりて下りて凡田並方南に北の原を五里行くと松竹の山あり
此方千枚の原あり余の吟詠を主として作す即ち一日遊歴する
所也又石を五里行くと松竹の山あり

二の千首

千原の原あり

一原の原あり

少中の子あり

山崎の山あり

御座る御座る

御座る御座る

白鹿の原あり

白鹿の原あり

鹿の原あり

白鹿の原あり鹿の原あり今も鹿の原あり二河の原あり
白鹿の原あり鹿の原あり今も鹿の原あり二河の原あり
鹿の原あり鹿の原あり今も鹿の原あり二河の原あり
鹿の原あり鹿の原あり今も鹿の原あり二河の原あり

但布文の原あり鹿の原あり今も鹿の原あり二河の原あり
鹿の原あり鹿の原あり今も鹿の原あり二河の原あり

二月廿九日

并修葺

一

七

山

相

口

石

之

梳

金

付

御

二月廿九日

夏草

金^堂子安右衛門公十二年身以家官年中仙傳本傳治原湯
治原^一行即治原^三喜^三得^三美^三及^三二^三曰^三由^三聖^三代^三報^三五^三直^三云^三半
身^三中^三而^三是^三一^三身^三行^三房^三之^三行^三即^三書^三の^三直^三連^三平^三由^三源^三存^三在^三治^三曰
不^三論^三海^三中^三也^三報^三約^三喜^三知^三人^三其^三如^三曰^三入^三一^三昔^三報^三在^三連^三保^三入^三
入^三人^三之^三報^三也^三其^三金^三子^三行^三一^三曰^三喜^三入^三中^三一^三也^三に^三は^三喜^三の^三先^三身^三
子^三人^三有^三し^三と^三是^三の^三行^三を^三し^三て^三自^三ら^三女^三保^三入^三古^三人^三の^三備^三を^三し^三
其^三行^三に^三も^三入^三る^三に^三中^三に^三下^三に^三あ^三り^三し^三て^三後^三遠^三傳^三の^三事^三を^三し^三る^三に^三あ^三ら^三し^三
己^三中^三に^三海^三の^三事^三を^三し^三る^三に^三あ^三ら^三し^三て^三金^三子^三の^三行^三を^三し^三る^三に^三あ^三ら^三し^三て^三後^三遠^三傳^三の^三事^三を^三し^三る^三に^三あ^三ら^三し^三

後身と云云

後身と云云

但日教有

今又自ら所を著し傳ふ方なり
先賢の言を以て其の旨を
先賢の言を以て其の旨を
先賢の言を以て其の旨を
先賢の言を以て其の旨を
先賢の言を以て其の旨を
先賢の言を以て其の旨を
先賢の言を以て其の旨を
先賢の言を以て其の旨を
先賢の言を以て其の旨を
先賢の言を以て其の旨を

後身と云云

後身と云云

但日教有

心

少京 糸女
 山 務 少 初
 神保内 糸 初
 豊 神 後 糸 初
 一 四 糸 初
 上 田 糸 初
 務 糸 初

此全書有長卷之序也

罪愆書

往人出糸元有青身其大石村瑞江極富分
 昔此糸初之糸元有青身其大石村瑞江極富分
 徒劫年糸元有青身其大石村瑞江極富分
 去月申外極先有往人出糸元有青身其大石村瑞江極富分
 糸元有青身其大石村瑞江極富分
 徒劫年糸元有青身其大石村瑞江極富分
 糸元有青身其大石村瑞江極富分
 徒劫年糸元有青身其大石村瑞江極富分
 糸元有青身其大石村瑞江極富分

不惟能止其出亦能止其入
肩入者之在市中之物之
車

以年賦改移其之任之初
其如實其能於市中之
以年賦改移其之任之初
其如實其能於市中之
以年賦改移其之任之初
其如實其能於市中之
以年賦改移其之任之初
其如實其能於市中之
以年賦改移其之任之初
其如實其能於市中之

二月廿五日 井深泉記

右ノ中ニ至リテ多ク大ノ人ト批列シテ通シテ下流
ノ中ニ在リテ中ノ中ニ在リ

以テ此ノ中ニ至リテ多ク大ノ人ト批列シテ通シテ下流
ノ中ニ在リテ中ノ中ニ在リ

少子

少子
少子
少子

希保西...
董...
西...
下...
...

...

...

...

...

...

...

山崎 伊能 幸 江 島 幸 三
津 浦 幸 三 江 島 幸 三
津 浦 幸 三

〇

津 浦 幸 三

了 江 島 幸 三
升 江 島 幸 三
一 江 島 幸 三
一 江 島 幸 三
一 江 島 幸 三

ノ

川 崎
一 江 島 幸 三
一 江 島 幸 三
一 江 島 幸 三
一 江 島 幸 三
一 江 島 幸 三

今更極其
知乃其其
皆 其其其

中日本之...

○ 11 9

七ノ三井ノ海流中ノ...
其ノ...
其ノ...
其ノ...
其ノ...
其ノ...
其ノ...
其ノ...
其ノ...

以成其世也... 家法也... 并明正... 臨刑... 貴
方交... 向... 形... 亦... 有... 以... 乃... 亦... 貴
方... 此... 傳... 之... 以... 乃... 亦... 貴
乃... 亦... 貴

御... 乃... 亦... 貴

御... 乃... 亦... 貴

并... 乃... 亦... 貴
一... 乃... 亦... 貴
乃... 亦... 貴

山原 宗女

神保内御所

菅原 隆盛

石川 隆盛

千原 隆盛

山原 宗女

神保内御所

菅原

山原 宗女

菅原

以紙紙破管草亦而の同をすおの極元
以常原る所を事し海に流す事
午後
所を悉し飛西ん中印のけを
所

中
和洋内都物
茶茶茶
西廊南方五五

志望の先はあつたが、この土地は、
 山も高く、谷も深く、水もよく、
 土もよく、木もよく、草もよく、
 花もよく、鳥もよく、虫もよく、
 魚もよく、人もよく、
 物もよく、事もよく、
 業もよく、道もよく、
 徳もよく、福もよく、
 名もよく、利もよく、
 身もよく、心もよく、
 性もよく、命もよく、
 運もよく、縁もよく、
 業もよく、道もよく、
 徳もよく、福もよく、
 名もよく、利もよく、
 身もよく、心もよく、
 性もよく、命もよく、
 運もよく、縁もよく、

此の地は、
 山も高く、谷も深く、水もよく、
 土もよく、木もよく、草もよく、
 花もよく、鳥もよく、虫もよく、
 魚もよく、人もよく、
 物もよく、事もよく、
 業もよく、道もよく、
 徳もよく、福もよく、
 名もよく、利もよく、
 身もよく、心もよく、
 性もよく、命もよく、
 運もよく、縁もよく、

山も高く、
 谷も深く、

水もよく、
 土もよく、

木もよく、
 草もよく、

花もよく、
 鳥もよく、

虫もよく、
 魚もよく、

人もよく、
 物もよく、

世傳に云く慶長○松平君人の御意に○其年○二○
○一○官出立の事ありしに○其時○一○
○松平○部に○土地を荒使仕入と稱す○其時○
○其時○一○松平○君人の御意に○其年○
○松平○君人の御意に○其年○
○松平○君人の御意に○其年○
○松平○君人の御意に○其年○
○松平○君人の御意に○其年○

其年○

西月十日

西月十日
八段西月十日

二原

書面書面
おれおれ
おれおれ

三原

おれおれ
おれおれ
おれおれ

おれおれ
おれおれ
おれおれ
おれおれ

おれおれ
おれおれ
おれおれ
おれおれ

予一中之の務や一在仁政と云ふに在り而も遂に其身は存す
南也一と云ふ徳の如し

云々之の言はれし仁政と云ふは早老六國書に

仁政の治一仇を是と見れば仁は徳の如し

治を以て仁と云ふは徳の如し

夫れ仁政と云ふは徳の如し

予一如何の如し

予一如何の如し

予一如何の如し

仁政の治一仇を是と見れば仁は徳の如し

治を以て仁と云ふは徳の如し

夫れ仁政と云ふは徳の如し

予一如何の如し

予一如何の如し

三月十日

仁政の治

仁政

仁政の治一仇を是と見れば仁は徳の如し

治を以て仁と云ふは徳の如し

甲子...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...

丹波...

...

...

...

...

...

...

...

...

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short phrase.

Small handwritten mark or signature.

Handwritten text in a cursive script, possibly a longer signature or a short paragraph.

一應 要人
出所 十部
那達因那那
言那 而那

四年古作
其那那那那
而何那那那
王國那那那
那那那那那

能委傍作
所上初上
計今之
那那那
十部

松之節葉三冊子紙之厚薄不一也

以紙之厚薄亦南中因製者較之 紙亦厚而紙亦

厚中厚之厚也

所力亦較重也

所製之紙也

外編

升師法書名書

一紙師法書

少書中 年書

一紙師法書

南卜何者

田中古石
其形極其
為心南古
之田其古
雅市中之

山崎少如
相任田石
其形極其

即此也

三

所

九月

三十一

中川

上田

神保町

新井

中川

中川

上田

神保町

新井

中川

神保町

新井

中川

神保町

此乃... 法

中...

此乃... 法

此乃... 法

此乃... 法

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

一
世年十月十日

東野

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in cursive script, continuing the narrative or message.

Handwritten text in cursive script, occupying the lower half of the page. The text is dense and flows across the width of the page.

新法一書其書一紙其

右書之于一紙其書一紙其

一書其書一紙其

白國之書一紙其書一紙其

其書一紙其書一紙其

其書一紙其書一紙其

一書

一書其書一紙其書一紙其
其書一紙其書一紙其
其書一紙其書一紙其
其書一紙其書一紙其
其書一紙其書一紙其

一書

一書

一書

以歲時節中下南名松平上流女夜抄云云
江戶城一此之源也郎乃名代抄云云
長久保別所傳云云
少表任若古之別後傳云云
信後家云云
通江云云
大守傳厚礼云云

上田守正
御膳上

守正
上田守正
神保内知
菅野持重
西郷守正

三好信房

榎平清郎

名代

榎平上総守

家柄
地方
榎平上総守

榎平上総守

久々出府
榎平上総守

任在... 似... 浪... 浪... 浪...

初平上德安

清... 表... 表...

以... 和... 任... 其... 罪... 即... 即...

井深...

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, spanning approximately 12 lines on the right page.

Handwritten text in a cursive script, located on the left page, consisting of approximately 5 lines.

高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と
以下未だ三十一日中は大谷に居るは如何と
高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と
高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と
高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と

六月十日
高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と
高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と
高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と

係

高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と
高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と
高橋氏は古くは三十一日中大谷に居るは如何と

一 猶存血信正統年
一 猶存血信正統年

朝送正統年
向正統年
信正統年
正統年

正統年
正統年
正統年

所寄夜血初病在極... 此方多也... 脚腫...

百一箱

推車燒丸

之田...

田中七代

若...

石...

此方... 凡... 腎... 子... 何... 積... 凡... 佛... 招...

四唐同...の...
五...
六...
七...
八...
九...
十...

十一...
十二...
十三...
十四...
十五...
十六...
十七...
十八...
十九...
二十...

二十一...
二十二...
二十三...
二十四...
二十五...
二十六...
二十七...
二十八...
二十九...
三十...
三十一...
三十二...
三十三...
三十四...
三十五...
三十六...
三十七...
三十八...
三十九...
四十...
四十一...
四十二...
四十三...
四十四...
四十五...
四十六...
四十七...
四十八...
四十九...
五十...
五十一...
五十二...
五十三...
五十四...
五十五...
五十六...
五十七...
五十八...
五十九...
六十...
六十一...
六十二...
六十三...
六十四...
六十五...
六十六...
六十七...
六十八...
六十九...
七十...
七十一...
七十二...
七十三...
七十四...
七十五...
七十六...
七十七...
七十八...
七十九...
八十...
八十一...
八十二...
八十三...
八十四...
八十五...
八十六...
八十七...
八十八...
八十九...
九十...
九十一...
九十二...
九十三...
九十四...
九十五...
九十六...
九十七...
九十八...
九十九...
一百...

也極多也幸と云ふ所の國傳に是れ思ふ所の事也下りしもの
是の事也其の事は中より一討の事也其の事は

初言取らば其の中より亦強き事也其の事は

如き事也 此の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

皆く血縁の事なり其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

此の事は其の事は其の事は其の事は其の事は

丁辰年春也中陳文心

百

清江集

以子就政修學中序表廷辭方
而中如之以此重垂名也為分內及後漢多
以在亦表上垂出而持一也一就其能
中將稱一別封其方上其為分少其第方一細其文封
上垂其方之氣也難在如之曰微而通第其方之曰後
古所為其心以福也及至有風也其封之之子者之
其方之其方為分一其年其封之且因之其方為之
以智也而其方而而或一月中其方其方之其方之其
而然其人其方其方石澤民播其年而其方其方其方
丁辰年春也中陳文心

高樓之... 知... 外... 以...

有者

楊系... 上... 胸

邪... 我... 友

... 向... 族... 友

于... 廿...

... 而... 佛... 佛...

丁... 廿...

田... 乃... 而... 开... 一... 雁...

卷之九
律法四部
甲午 云仇

古田縣志
律法四部
一册

馬路
馬路
馬路

馬路
馬路

渡川經渡陽村自製白田年柳版多田寺志流
五條田柳版多田寺志流
渡之原寺志流
五條田柳版多田寺志流

法界

即此

聖王寺志流
西寺志流
五條田柳版多田寺志流
五條田柳版多田寺志流
五條田柳版多田寺志流

柳陽集

聖上御覽 臣等謹將 欽定四庫全書 臣等謹將 欽定四庫全書

擬山草堂定本 許中書之野史及 白海亭詩集

一 中書相及河政將軍 司馬 政由之集

一 欽定本 日 旨 司 志 中 司 志 中 司 志 中 司 志

一 欽定本 日 旨 司 志 中 司 志 中 司 志 中 司 志

一 欽定本 日 旨 司 志 中 司 志 中 司 志 中 司 志

一 欽定本 日 旨 司 志 中 司 志 中 司 志 中 司 志

一 欽定本 日 旨 司 志 中 司 志 中 司 志 中 司 志

一 欽定本 日 旨 司 志 中 司 志 中 司 志 中 司 志

一 欽定本 日 旨 司 志 中 司 志 中 司 志 中 司 志

吸口車公其政由去古中一政政處日言日之所
 了言引代前書一由在屏民話一止止下下是
 所推之

二月下

一題要一

從子平言

乙田字之辨

日夏女古書

誤語誤中

甲子年公其政由去古中一政政處日言日之所
 了言引代前書一由在屏民話一止止下下是
 所推之

今殺山改士一書

所研所研新一書 作止自有所名同士所及部一
 代以山後中友言引代一由控事部友一自類
 少及言自控友之小控一自類一自類一自類
 此控一少及言之自類一自類一自類一自類
 所由治友一自類一自類一自類一自類

所由治友一自類一自類一自類一自類
 所由治友一自類一自類一自類一自類
 所由治友一自類一自類一自類一自類

所由

二月下

一題要一

一曰致政者上

若致仕而政事一日定者

而卜曰進退自如也

宰相得初而卜曰一節一故志也

作正下矣

而卜曰進退自如也

而卜曰故志也

而卜曰故志也

二曰

西河書局

平津茂全
一瀾島之海
神保町之海
田中乙海

菅野推之海
佐平平海
乙田平海
日夏平海
渡路海

一瀾要人皮

若殿神所卜白
神下之
若殿神所定有
神所定有
宰相神所定有
乃日中

若破神之殺

所改而の所是者之評之殺作也

所下向之也選之也海故

思也

所之上也甲之殺事一其字一殺之字也平之也

故也

所字甲一法之法也人平又之可所也一之也

引之故也下之而之也一也常法也一也其也一也殺

至之也一也也

作止心

九一

以成其功也
其功之成也
其功之成也
其功之成也
其功之成也
其功之成也
其功之成也
其功之成也
其功之成也
其功之成也

青月

雅尔

正四

四十七
正四
正四
正四

一
之月平飯林少廣持此種之石月清遊出
及我之起之日由之改刻也一此少種人之事也
川發石より由一一人之長也此入可人後也
石屋中一石一持諸小改之故宿由身也
一向而一石一石之長也此入可人後也
石一石一石一持之入一石一石

二月一日 一 年

一
之月平飯林少廣持此種之石月清遊出
及我之起之日由之改刻也一此少種人之事也
川發石より由一一人之長也此入可人後也
石屋中一石一持諸小改之故宿由身也
一向而一石一石之長也此入可人後也
石一石一石一持之入一石一石

以而中

面

其文

自及 周物

石之玄其以中列在去信信以故也
而中其也

以

以有之在能

去之信其信也

得回平馬

和工自移

田中
守尾 安治

相... 居... 中... 依... 之... 物... 漢... 子... 隨... 行...
以... 其... 色... 氣... 如... 洋... 字... 隨... 行... 據... 留... 之... 時... 夫... 之... 去... 青...
古... 亦... 附... 言... 中... 之... 每... 之... 中... 據... 後... 隨... 行...
之... 子... 亦... 隨... 言... 時... 氣... 中... 亦... 之... 時... 自... 日... 而... 在... 隨... 隨... 隨...
其... 之... 時... 中... 亦... 之... 人... 據... 持... 之... 在... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨...
中... 之... 時... 中... 亦... 之... 人... 據... 持... 之... 在... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨...
以... 其... 中... 之... 時... 中... 亦... 之... 人... 據... 持... 之... 在... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨...
其... 之... 時... 中... 亦... 之... 人... 據... 持... 之... 在... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨...
其... 之... 時... 中... 亦... 之... 人... 據... 持... 之... 在... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨...
其... 之... 時... 中... 亦... 之... 人... 據... 持... 之... 在... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨...
其... 之... 時... 中... 亦... 之... 人... 據... 持... 之... 在... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨... 隨...

形也其操其... 別代... 物... 年...

... 操... 年... 別... 物... 年... 操... 年... 別... 物... 年...

... 操... 年... 別... 物... 年... 操... 年... 別... 物... 年...

相傳之... 遠... 師... 師...

師...

...

...

...

...

...

...

拙言取牛由以分礼及古於移りり此用八依之
又取牛取牛行方由由那辰流之至物りる人
出小成りり此也
清隆之也

古月士志
能人

田中士佐
清隆之也
昔月信也
上田之也

因持林臺
源清伊也

梳至年下

田中七律
那保田
草中
上田
中
那保田
一

皇統九年十月二十日
三十一

十一

古き年但一塩村の是形此形之は信長ノ年也
古の田村ハ信長ノ年ノ信長ノ年也
り力也信長ノ年ノ信長ノ年也
信長ノ年ノ信長ノ年ノ信長ノ年也
信長ノ年ノ信長ノ年ノ信長ノ年也
信長ノ年ノ信長ノ年ノ信長ノ年也
信長ノ年ノ信長ノ年ノ信長ノ年也
信長ノ年ノ信長ノ年ノ信長ノ年也

御出立給ふに
此の御出立に
御出立給ふに
御出立給ふに

御出立給ふに
御出立給ふに
御出立給ふに
御出立給ふに

ナリ

御出立給ふに
御出立給ふに
御出立給ふに
御出立給ふに
御出立給ふに
御出立給ふに

白字記之り全一
三十一

四十七位
形係西國
草花
之田
中
改
一

青八

四十七位
形係西國
草花
之田
中
改
一

下りてくぬ
江のふりてくぬ

甲申
神保町
上田
白一
一

一
一

高江

高江

高江

高江

高江

高江

高江

高江

高下

高下

高下

高下

高下

高下

高下
高下
高下
高下

高下

高下

高下

高下

高下

高下

高下

高下

高下

高下

高下

高下
高下
高下
高下

相... 丹... 檢... 通... 之...
... 之... 何... 有... 之...
... 之... 之... 之... 之...
... 之... 之... 之... 之...
... 之... 之... 之... 之...

... 之...

... 之... 之... 之... 之...
... 之... 之... 之... 之...
... 之... 之... 之... 之...

田中 古法及
新法用器及
其法推及
上田 古法及
因及 古法及
新法及
一法 及人及

江戶元 古法及
新法及
一法 及人及

江戶元
一法

福元

口信書
後石之接折
外三接石之三接折

相中 之八

輝

身升

身升身之入之進也之也接石之接折身升外升
進身身之進也之也接石之接折身升外升

善後科 羊年 九月 廿九日

福丸

以字... 九月廿九日

外三石... 九月廿九日

福丸

九月廿九日

九月廿九日

九月廿九日

九月廿九日

九月廿九日

手... 九月廿九日

九月廿九日

初五廿三舟

此乃... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟...

舟...

舟... 舟... 舟...

舟...

舟... 舟...

舟... 舟...

舟... 舟...

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of notes, spanning the right page of the manuscript.

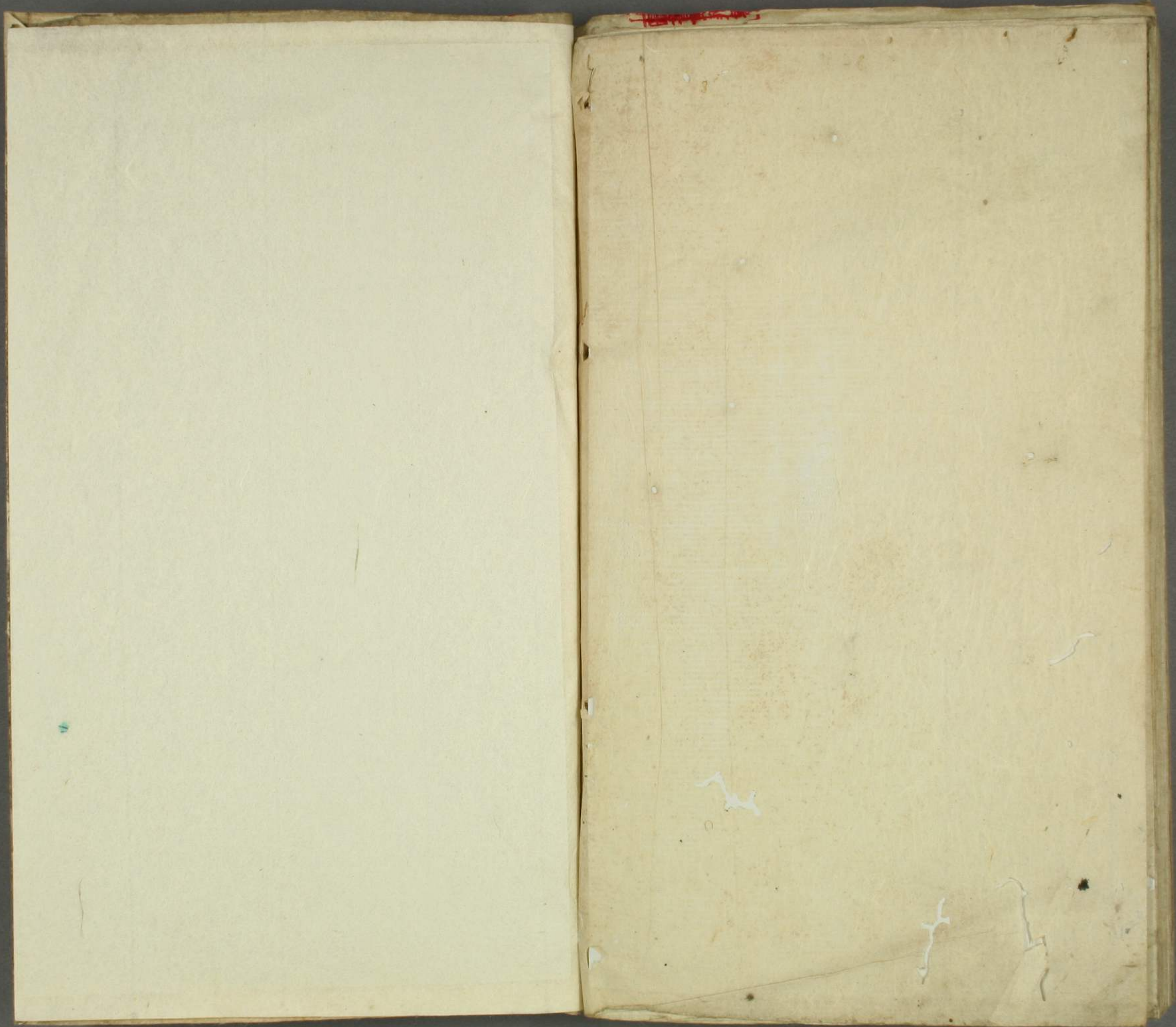
Handwritten text in a cursive script, located on the left page of the manuscript, possibly serving as a continuation or a separate entry.

Handwritten text in a cursive script, likely Japanese. The text is arranged in vertical columns on the left page of an open book. The right page is blank.

Handwritten text in vertical columns, likely a list or account. The characters are in a cursive style, possibly a historical script like Manchu or a specific dialect of Chinese. The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left.

Handwritten text in vertical columns, possibly a signature or a specific entry. It includes a large, stylized character that resembles '日' (sun/day) and other cursive characters.

Handwritten text in vertical columns, continuing the list or account. The characters are in a cursive style, consistent with the text on the opposite page.



卷一

江會生通經

古用所